

たくさんの応募ありがとうございます。総数 514 作品、355 名の方より応募いただきました。
選考の結果、次の方々の受賞が決定しました。
最優秀賞の永田様の作品は今後協会ロゴで使用します。

最優秀賞

永田 優 氏（茨城県）



略称として JBMA を使用しました。
JBMA と屋根の形で建築物を支えている様を表現しました。
屋根は未来に向かって進む矢印の形にしています。

永田氏プロフィール
1953 年、茨城県生まれ。2017 年に 35 年間デザイナーとして勤務した会社を定年退職。
地元のロゴマーク公募に入選したことをきっかけに今回の公募に参加。

優秀賞

山中 大輔 氏（大阪府 有限会社シー・エス・シー代表）



安心・安全な建築材料のイメージとして、自然界でも多くみられる安定した構造である六角形から着想。全体として建築材料(マテリアル)を表しています。
赤色の部分は Association(協会の A)のカタチになっており、白色とグレーの部分がそれによってできる建物をイメージして おります。また B と M(Bullding Mateterials)をビルのカタチにしています。カラーとしては日本(日の丸)を意識し、建物の背景に昇ってくる太陽を連想させる構図にしました。

優秀賞

浜口 ハルオ 氏（高知県）



建物のシルエットで、「建築材料のプラットフォーム」を表現しました。
中央の赤丸は日本の建築素材の信頼性やイノベーションの精神をイメージしています。
左右の 8 つのラインは、協会のスキーム図の「業界発展・ダイバーシティ・働き方改革・イノベーション」及び「改革・成長・協同・創造」を表し、8 つの項目が柱となって協会を支えている様子を表現しました。